

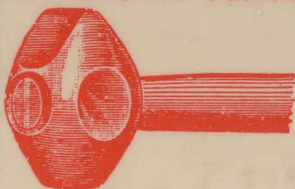


Farriers' Hammers.

43159 Farriers' Hammers, adze eye. Weight
1 pound 1 ounce. No. 51.
Each\$0.45
Per dozen..... 5.00

ベルトの穴 神吉拓郎

Horseshoers' Turning Hammers.



43166 Horseshoer's
Turning Hammer,
Chicago pattern,
with handles, solid
cast steel; 2, 2½
and 3 lbs.; weight
does not include
handle. Y and P
brand, fully war-
ranted.
Each.....\$1 35

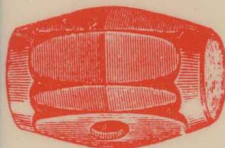


43168 Horseshoer's
Turning Hammer,
New York Pattern,
with handle; solid
cast steel, 2, 2½ and
3 pounds; weights
do not include han-
dle. Price, each\$1.40

43170 A. T. Horseshoer's Turning
Hammer, same style and weight as
No. 43168. Made of superior quality
of steel. Price, each.....\$1.25



43173 Boiler-
maker's Ham-
mer, solid cast
steel, oil finish-
ed, polished
faces, no handle;
weight, 2 and 3
lbs. Per lb.\$0.20



43174

Horseshoer's Turning Sledge, solid cast
steel, oil finish, polished faces, from 6 to 10
pounds. Price, per lb.....\$0.09



43175

Blacksmiths' Sledges, solid cast steel,
weight, from 8 to 17 pounds. The increase is
by pounds. Per pound..... .07½

ベルトの穴

神吉拓郎

毎日新聞社

ベルトの穴

定価 二二〇〇円

一九八八年二月二〇日 印刷
一九八八年三月五日 発行

著者 神吉拓郎

編集人 沢島 毅

発行人 川合多喜夫

発行所 毎日新聞社

〒100-5 東京都千代田区一ツ橋

〒530 大阪市北区堂島

〒802 北九州市小倉北区紺屋町

〒450 名古屋市中村区名駅

印刷 中央精版 製本 大日製本

© Takuro Kanki Printed in Japan 1988

ISBN4-620-30607-X

ベルトの穴
目次

穴について 9

管 見 14

投票箱の穴 19

十九個の穴 25

残ったものは 30

たかが言葉 35

悪夢のフランス料理 40

襟の穴 45

ロンドンの穴 50

どこのどいつか 55

ワニの帝国 60

歩くということ 65

私のワープロ元年 70

ライス・ロード 75

一本の棒 80

……手に荷物 85

篆刻見習い 90

日本のサイ 94

眠り男 99

成城懐旧 104

芭蕉祭 109

駅から駅まで 115

N・Z日記 120

61年のケイオー 140

一杯のコーヒー 145

夢袋さん 150

いろいろな正月 155

歳時記の新年 160

ひきぞめ 165

喫茶店盛衰記 170

タンゴの酔 175

わが家のO・A化 180

茶のみ話 185

右、命名ス 190

スモーカーの日記 195

西伊豆その頃 200

英佛戦争観戦記 205

究極の乗り物 210

知らない人たち 215

手帳

220

自画像

225

カレー百味

230

梅干ひとつ

235

玉やの情景

241

タマゴ礼賛

246

こんどのジャパン

251

ヴォルガの鼻唄

256

筆不精の弁

262

あとがき

268

装幀 大木眠魚

ベルトの穴

穴について

なんによらず、穴というものは、気になるものだ。

中年の声を聞く頃から、ベルトの穴は、われわれの一大関心事になる。

今まではめ馴れていた穴では、次第に苦しくなり、或る晩、食事をし終ったところで、突如、穴ふたつばかりアップしなければ、息も出来ないという破目に陥る。

そして、翌日から、それが普通の状態になる。そうしてみると、それまでいかに無理をしてベルトを締め上げていたかが、身にしみて解る。身体ぜんたいが楽々として、それに、ズボンだつて、ずり落ちたりしやしないのである。

「やっぱり、無理はいけないんだよなあ……」

しみじみとそう思って、ふた月も経たないうちに、また、すこしきつすぎやしないかという呪

縛の感じが、腰のあたりでし始める。

ベルトの穴は、インフレと同じで、小康状態ということはあっても、大勢は決っていて、拡大以外はない。

私の友人に、豚一頭分では、ベルトが出来ないという男がいた。どうしても、途中に継ぎはぎが入ってしまうのだそうで、当人も、なかばそれを自慢にしていたら、不幸にも事故で早逝してしまった。もしその男が健在ならば、肥満体の男たちの心の拠（よ）りどころにご紹介したかったのに残念でならない。

ところで、私がほんとに話したかったのは、別の穴のことである。

このところ、私が住んでいるあたりは、工事だらけである。

近所の、私鉄の上を通っている鉄橋は、もう四、五年かけて拡張工事中だし、電気とガスと水道は、かわるがわるやって来て、舗装をはがして、なにかやっている。今まで民家だったところが買収されて、ビルに建て替わるようだし、道路を掘る音やら、鉄の杭を打つ音やら、地ならしの響きなどが絶えたためしがない。

人間は、なんにでも順応する動物らしいが、騒音とか、地響きだけは例外らしくて、たとえば、テーブルの上の、午后の紅茶の表面が、つねに地響きで波立っているのは愉快とはいえない。

ときには、ずしん、と、もの凄いい振動が来ることもある。いよいよ例の東海大地震がやって来たか、と、腰を浮かすことが、日に一度はある。

工事の為に、当然、道路は狭められて、普通なら何車線かあるところが、ひどい時は、単線になって、待ち合わせという時もあった。

そうなると、工事現場の監督に、ひとこと何かいいたいくなるのは、人情というものである。

つい此の間も、一人の老人が、現場監督に話し掛けていた。

「また道をほじくり返して、なにをしようというんだね」

すると、現場監督は、ごく物馴れた様子で答えた。その手の質問は、日に何度となくされつづけているようだった。

「舗装をし直すんですね。そうでないと、水道管やガス管が割れてどつと水やガスが噴き出す恐れがあるんです」

「ふうん」

老人は、言葉尻をとらえていった。

「しかし、そこは、この前掘ったばかりの所だぜ。新しく舗装し直したばかりだ」
なるほど、その場所は、老人のいう通り、まだ舗装の色も新しかった。

「前のは、ガスの工事だね。われわれは道路の方だから……」

「なんとか一度にやれんもんなのかな。ちっとは住民の迷惑を考えられんもなかね」

「それは充分に考えているんですよ。もし、今のうちに手当てをして置かなかつたら、ビル一つ分すっぽり埋まってしまうような大穴があかないとも限りませんよ。そうなつたら大変です。これから一帯水浸しになるし、交通止めにはなるし、修理の費用だつて莫大なものになつてしまうんです」

「ふうん。しかし、なんだつてそうしょっちゅう修理をしなきゃいかんのかね」

「そりゃ、車が悪いんですよ。こう交通量が多い上に、重量のある車に通られちゃ、たまりやしない。この程度の舗装じゃ、長いこともちゃしませんよ。われわれからいわせりゃ、東京中、大型車は通行禁止にして貰わないとね」

「それなら、ガスも水道も、だいじなものは一切もつと深く埋めて、もつとがっちり舗装したらどうなんだ」

「そんなことをしたら、それこそ大変なんですよ。定期点検するためにいちいち一〇メートルも掘り返すことになつたら、どうなると思います。その道路は、一年がとこ工事中になっちゃいますよ。この道路が、一年も通行出来なくなると、両側の商店は死活問題でしょう」

現場監督のいうことは、確信に満ちていて、理屈に合っているかいは問題ではないという様子であつた。

老人も、いささかあきらめたらしく、苦笑しながら、それでも、なんとか一矢報いたいと思つ

たらしい。せいぜい皮肉な調子で、こういった。

「それにしても、工事が急に増えるのは年末からと決ってるが、年度末で、予算がありあまってるのを使い切る為じゃないのかね」

すると、現場監督は、無邪気にこう答えた。

「さあ、私には、よく解りませんがね。穴ほことか、不良箇所ってものは、その頃になって、急に増えるもんだってことは確かですね。私らはどこそこへ行けて指示されるだけで、やるだけなんだけど、年度末と選挙の前は特別忙がしくって、やんなっちゃうくらいですよ」

そして、現場監督は、老人に向って、親切にこう教えた。

「もし、このへんの工事の予定や、これから穴があきそうな道路について興味があるんなら、都や区の議員さんが詳しいですぜ。あの人たちにとっちゃ、小さな穴ほこひとつだって、大いに役に立つんですから」

管見

ゆうべ、私は、隣に坐った男からいい話を聞いた。

「思いあがってるんだよな、人間ってやつは……」

私は、はじめ、どういふことかと首をかしげた。

「……人間なんて、偉そうにしてたって、只のパイプに過ぎないって言ってやったんだよねえ。それでしくじっちゃったんだよねえ」

「パイプって」

「管だよ。水道のホースみたいな、ああいう管くだだよ」

その男が、向いにいる女に説明するのを聞いていると、こういう具合だった。

その若い男が、女友達を連れて、中華料理店に入ったのである。そして、好物のナマコを注文しようとしたら、彼女は、あんな気味の悪いものはイヤだといったんだそうですよ。

「あんな、ノッペラボウで、口とお尻の穴しかないなんて、グロよ」

そこで、男はムツとして、ナマコの為にひとこと弁じたわけ。